

会員の皆様へ：新型コロナウイルス対策についての提言（4月6日）

心臓血管外科診療の最前線で日夜ご活躍頂いている会員の皆様方に、今般の新型コロナウイルス感染症の重症患者の対応について、当学会として提案させていただきます。

心臓大血管手術は、チーム医療として多くのスタッフと医療資源を使用して成り立っています。手術室、ICUと集中治療スタッフ、看護師、臨床工学技士等は、新型コロナウイルス感染重症患者が必要とする医療資源と重複しています。したがって、主治医チームが心臓大血管の待機手術症例について、延期の可否を慎重に判断することで、新型コロナウイルス対策に必要な医療資源を振り分けることが可能となります。ちなみに、ドイツでは3月13日から全土で予定の心臓大血管手術を停止する措置を取り、医療崩壊となっている周辺国からも集中治療が必要な患者の受け入れを行っています。アメリカでは手術室をICUとして転用する準備も進んでいるとの情報も入ってきております。

さらに、待機症例および救急症例の転送、およびECMOの運用に関しては、各地域の心臓血管外科施設間でより一層の情報共有を継続的に行い、高度専門職の人的支援を含め、地域全体として医療資源の効率的運用を図ることは極めて重要と考えられます。

以上より、下記の対応を提案いたします。

- 1) 緊急性が低い待機的な心臓大血管手術の延期
- 2) 患者転送、緊急症例の受け入れ及びECMO運用に関する地域施設間での情報共有

各地域・施設の現状により上記対応の実施基準は異なると思われますが、感染蔓延地域およびその周辺都道府県では、特にその必要性が高いことをご理解いただき、迅速に組織的な対応をされますようお願い申し上げます。

令和2年4月6日

特定非営利活動法人 日本心臓血管外科学会 理事長
横山 齊